

幼児教育施設と小学校との連携・接続の推進

～接続カリキュラムの改善をとおして～

保幼小接続についての本市の課題としては、施設間での連携が十分にとれているとはいえないことが挙げられる。そこで、保幼小の連携を推進するため、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの改善をとおした研修会を企画した。

参加者 公立幼児教育施設：1名、私立幼児教育施設：6名、小学校：11名

準備 当初は参集型で実施する予定であったが、感染症対策のため zoom を活用したオンラインでの実施に切り替えた。これに伴い、各施設が作成しているカリキュラムは事前にデータで提出してもらい、当日までに各施設にデータ送付する形で資料の交換を行った。また、講話の資料についても当日までにデータで配付した。

■講話「接続カリキュラム改善や保幼小連携の進め方について」

茨城県幼児教育アドバイザー派遣を活用し、「茨城キリスト教大学 文学部児童教育学科 教授 飛田 隆 様」を講師として、40分間の講話を行っていただいた。「茨城県保幼小接続カリキュラム」について詳しく解説していただいた。

※参加者の感想

- ・アプローチカリキュラム作成では、「小学校の先生に分かりやすく、イメージしやすい言葉で書いていくこと」「保育活動のどの部分で何が育っているのか・育てようとしているのか」など、子供の行動や活動を言語化し、伝えることの必要性を感じました。(幼児教育施設担当者)
- ・幼児教育における「遊び」の重要性を再確認しました。スタートカリキュラムは、幼児教育施設でどのようなことが行われているかよく知ったうえで作成していきたいと感じました。(小学校担当者)

■グループ協議「接続カリキュラムの見直し等について」

参加者を中学校区ごとの4グループに分け、それぞれが作成しているカリキュラムについての説明等を行い、考え方を共有したり、協議しながら改善点について話し合ったりした。

※参加者の感想

- ・小学校、他園との情報交換で自園に足りていなかったものが明確になりました。接続について重なり合う部分を作ってあげることができるように、連携を深めていけたらと思いました。(幼児教育施設担当者)
- ・さまざまな具体的なお話を伺うことができ、保育園・幼稚園での学びの積み重ねを引き受ける体制、接続カリキュラムのひな型などの課題がみえ、保幼小の重なりを意識した取組を行うことが大切だと思いました。(小学校担当者)

今回の研修会をとおして、改めて保幼小接続についての重要性と現状での問題点に気づくことができ、連携・接続に向けての意識が高まった。今後は、市統一でカリキュラム作成のひな型があると連携を進めやすいという意見があり、市として検討を進めていきたい。

幼児教育と小学校教育の連携・接続のための研修会 (令和3年度)(オンライン研修)

幼児教育施設及び小学校・義務教育学校の職員を対象とした幼児教育と小学校教育の接続に関する研修会を開催することにより、つくば市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進する。

参加者 公立幼：16名、小学校：27名（小学校2校は、学校行事のため、欠席）
義務教育学校：4名 ※コロナ禍のため、私立幼、私立保は、今回は対象外とした。
市町村教育委員会関係者（幼児教育担当者）：2名

準備 幼稚園：アプローチ・カリキュラム（PDFデータ）
小学校・義務教育学校：スタート・カリキュラム（PDFデータ）

■研修内容 「講話」

「幼児教育と小学校教育の円滑な接続について」

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課就学前教育・家庭教育推進室 指導主事 中庭朋子先生

幼児教育と小学校教育との接続では、子供同士や保育者・教員の交流は各幼児教育施設と小学校とで進んできているが、カリキュラムの接続が十分であるとは言えない状況である。遊びや生活を中心とする幼児教育と、教科等の学習を中心とする小学校教育とでは、教育の内容や方法が異なるため、スムーズに適応できない児童がいる。保育者は、「小学校において、今後幼児がどのように育っていくのか」、小学校の教員は「子供たちが幼児教育施設でどのように育ってきたのか」を見通した教育課程の編成や実施が求められる。

■協議における主な意見（グループごとの協議）

視点

- ・保幼小接続カリキュラムについて
- ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について

○ 幼児教育施設保育者の意見から

幼稚園は、5歳児の12月までに、小学校に親しみがもてるように、小学校との交流、見学の機会を設けている。また、生活習慣が身に付いているか、自分たちでできるようになっているか見直している。友達と話し合ったり、協力し合ったりすることで、表現する楽しさを味わえるような活動を行っている。

1月～3月は、生活に見通しをもち、時間を意識して行動するような手立てをしている。また、1年生になることへの期待をもって生活し、年長児として自信をもって園生活が送れるように環境を整えている。

○ 小学校教員の意見から

小学校は、入学した第1週は、学校の環境に慣れ、教師や友達と遊びや生活を楽しんだり、幼児期の体験を生かし、「できる」という気持ちを支えにして、学校生活に必要なきまりや約束を少しずつ覚えながら、安心感をもって活動や学習に取り組んだりできるように支援している。



幼児教育と小学校教育の円滑な接続についての講話を聞いたり、協議を行ったりしたことで、幼児教育施設や小学校での現状を再確認することができた。また、市としては、保幼小の架け橋プログラムの実施に向けて、幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善のための取組を推進していく。

県幼児教育アドバイザーを活用した幼児教育合同研修会 ～オンラインによる接続カリキュラム検討について～

概要 … 新型コロナ禍の中、2年間開催できなかった市指導室主催の幼児教育合同研修会を県幼児教育アドバイザーを活用して夏季休業中に実施した。当初、集合研修を予定していたが、第7波の感染拡大によりオンライン研修に変更となった。2年間、各中学校区のご幼保小連携会議や連携事業の実施状況に差が出て相互参観、相互交流が十分に行われないう現状がある。講師講話をもとに中学校区毎に接続カリキュラムの検討を行い、協議で課題となった点については継続して検討し、改善を図るよう促した。

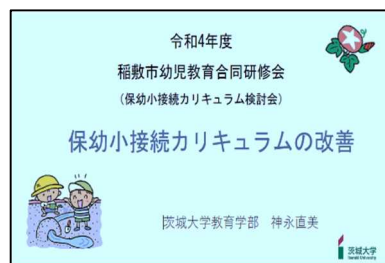
参加者 公立幼：3名、公立こ：3名、私立保：2名、小学校：9名、計17名

準備 各園のアプローチカリキュラム、各小学校のスタートカリキュラム、茨城県保幼小接続カリキュラム、円滑な接続に関する事前アンケートの集計資料、講話資料

■ 県幼児教育アドバイザー講話「保幼小接続カリキュラムの改善」

茨城大学教育学部教授、同附属幼稚園長 神永 直美先生

- 1 これまでの幼保小連携接続の効果と課題
 - 2 カリキュラムをつなぐために「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料」(初版から)・文部科学省
 - 3 協議に向けて
- * 架け橋期のプログラムの必要性や2年間の見通しをもって実施していくこと、ご幼保小連携の重要性について理解することができた。



■ 中学校区毎の接続カリキュラムの改善についての協議

○ 協議の主な観点

- ・アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの見直し
- ・円滑な接続のための情報交換

○ 幼児教育施設保育者の意見から

- ・スタートカリキュラムを理解し、今後どう小学校につなげていくかを考えていきたい。
- ・接続カリキュラムについての検討をきっかけに日々の実践や園児の学びを振り返ることができた。

○ 小学校教員の意見から

- ・実態に合わせて合科的な指導を取り入れたり、モジュールを活用したり、カリキュラムを柔軟に考えたい。
- ・小1プロブレムへの対応には小学校での安心感が大切だと分かった。
- ・園の先生方が小学校教育を意識して育ててくれていると分かった。改めて小学校生活が始まるスタートにならないよう、学びが継続されるように心がけたい。
- ・「しんとね教育プラン」のアプローチ&スタートカリキュラムの様式を見直すか、新しい形に変えるか話題になった。地域の子供たちに合った接続カリキュラムになるようにしたい。



中学校区連絡会で作成した教育プラン

まとめ … 新型コロナ禍により中学校区のご幼保小中連携会議や連携事業が停滞していたが、講話から「架け橋プログラム」について理解を深めることができた。また中学校区の園と小学校の教員がオンライン上ながら顔を合わせて接続カリキュラムについて具体的に検討できたのは大きな成果だった。事後アンケートで全員が中学校区毎の協議が有意義だったと回答している。検討しきれなかった事項は、継続して協議していくことを確認した。

幼児教育と小学校教育の円滑な接続のための研修会

～オンライン動画配信による研修～

概要

保幼小の円滑な連携・接続を推進することを目的とし、市町村の取り組みの紹介・幼児教育に関する講話を行い、研修会終了後、参加者への幼児教育施設と小学校との交流についてのアンケートの実施をした。

参加者 ・幼児教育施設 9園 20名 ・小学校 5校 21名
 ・教育委員会 5名 ・合計 46名

実施方法 ・新型コロナウイルスの感染拡大のためオンラインによる動画配信

■講話（動画配信）「幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて」

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課 就学前教育・家庭教育推進室 中庭朋子指導主事の協力により、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた講話の動画を作成し、各園と各小学校に配信した。

研修の中で、東京都教育委員会作成の動画「幼児教育と小学校教育9年間の学びをつなぐ」を視聴し、他県の保幼小接続の実践について学ぶことができた。



研修会（動画視聴の様子）

■研修を終えてアンケートより

- 幼児教育施設保育者の意見から
 - ・幼児教育から小学校教育へ切れ目なく円滑に接続するために、お互いの教育のつながりをイメージし、幼児の実態に応じて指導を計画することが大切だと感じた。
 - ・つながりを大切にし、幼児教育が終わるのでなく小学校教育へ接続していく、そしてその先までつながっていくことを学んだ。
 - ・幼児教育と小学校教育の相互理解・連携を深め、一人一人の子どもたちの学びや育ちを繋げていく重要性を改めて学んだ。
- 小学校教員の意見から
 - ・幼児教育と小学校教育の双方の取り組みの理解が必要だと感じた。
 - ・幼児教育で培われた学びに対する芽生えを、どのようにして小学校で育て、学習に向かわせていくかの重要性を、職員間で共有すべきだと感じた。
 - ・保幼小で連携しながら、学習、生活の両面から円滑な接続が大切だと再認識した。

学びの連続性を保つ接続カリキュラムを実施することが重要である。今後、先生方の交流はもちろん、幼児と児童の交流を積極的に行うとともに、研修会の開催等により連携接続の充実を図っていくことが大切である。